

今日のトピック ブラジルの経済・市場動向（2018年4月）

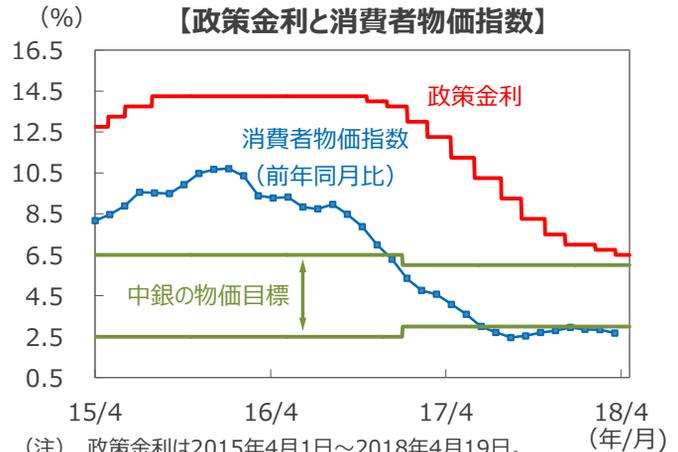
通貨は軟調、株式市場はしっかりの展開

ポイント1 消費者物価は低位安定 中銀の目標レンジを下回る

- 4月10日に発表された、18年3月の消費者物価指数は前年同月比+2.68%と、前月（同+2.84%）から小幅ながら低下しました。インフレ率は、引き続きブラジル中央銀行（中銀）の物価目標レンジ（+4.5%±1.5%）の下限を下回っており、極めて低水準で安定しています。

ポイント2 利下げは継続 次回会合で最後の見通し

- 中銀は、3月21日の金融政策委員会で、低インフレを理由に、政策金利を0.25%引き下げて、6.50%としました。利下げは12会合連続で、政策金利は過去最低を更新しました。
- 公表された金融政策委員会の議事録によれば、3月会合の声明文の通り、次回5月の会合では0.25%の追加利下げが実施され、その後は政策金利が据え置かれる見通しであることが確認されました。
- 5月会合での利下げを最後に、金融緩和サイクルは終了するとみられますが、これまでの利下げ効果が今後も景気回復を支えると考えられます。



(注) 政策金利は2015年4月1日～2018年4月19日。
消費者物価指数は2015年4月～2018年3月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注1) データは2015年1月1日～2018年4月19日。
(注2) (レアル/米ドル) は逆目盛。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 市場は秋の大統領選挙を意識する展開へ

- ブラジルの通貨レアルは、トランプ米政権が発動した鉄鋼関税を契機とした鉄鉱石価格の下落などを受け、対米ドルで一時約10カ月ぶりの安値水準を付けました。鉄鉱石価格は持ち直す可能性がありますが、レアルは、10月の大統領選挙を控えた政治の不透明感が強いこともあり、当面上値の重い展開が見込まれます。
- ブラジルの株式市場は、景気回復や追加利下げ期待などから、高値圏を維持しています。秋の大統領選挙を控えて政治の不透明感が残るものの、今後も着実な景気回復が株式市場を支えそうです。

ここも
チェック! 2018年3月22日 利下げが続くブラジルの金融政策（2018年3月）
2018年3月15日 緩やかに回復するブラジル経済（2018年3月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。